

発達障害を抱えた 子どもの不登校予防・解決の視点

名城大学 曾山和彦

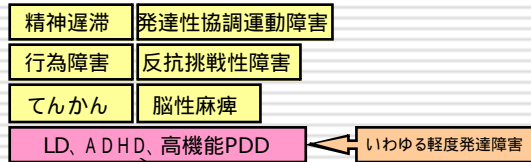
2008.8.6

支援者として欠かせない三つのこと

- 発達障害とは何か - 基本理解
- 発達障害にどうかかわるか - 基本対応
- 学校とどうつなぐか - コーディネーション

発達障害とは；特徴及び主な障害

- 先天的
 - 症状が発達期(乳幼児期に多い)に出現
 - 生涯に渡る
- 基本的には、脳の機能的な問題が原因とされる



通常学級で彼ら自身「困っている子どもたち」

発達障害者支援法(2005年4月施行)

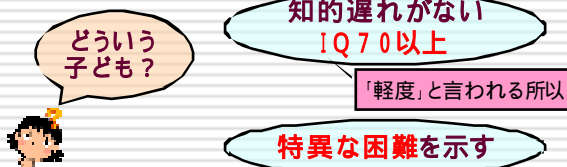
□ 支援法における発達障害定義

自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害をいう。

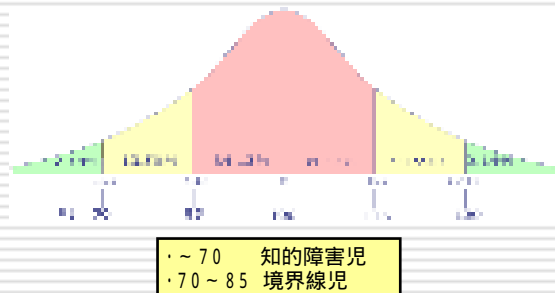
これまで教育や福祉の支援対象となっていなかったものに対し、国、地方公共団体の支援責務を明らかにした。また、学校教育における支援、福祉増進を目的とするため、対象はやや狭義になっている。

(軽度)発達障害の子どもたち

LD・ADHD・高機能自閉症等の発達障害のある子どもたちが小・中学校の通常学級には6.3%在籍する



知的発達水準 IQの分布



LD (学習障害)

聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する、の中で、特異な困難がある <教育的LD> disabilities = 困難さ

言語性LD; 言語理解、表出、読み、書きの困難
非言語性LD; 空間、身体像、社会的知覚の困難

チェックポイント〜スキップ、フォークダンス、縄跳びの困難

読み・書き・計算の障害 <医学的LD> disorders = 機能不全

ディスレクシア

ADHD (注意欠陥 / 多動性障害)

「不注意」、「多動性」、「衝動性」の三つの問題が見られる
セルフコントロールの発達障害

前頭葉の活動が不活発
(ドーパミンなどの神経伝達物質の量、働き!?)

実行機能障害、ワーキングメモリの障害とも言われる

教室で、特に
気になる子ども

活性作用のある刺激剤
メチルフェニデート

リタリン コンサータ(日本初の治療薬)

PDD (広汎性発達障害)

- ・三つ組(社会性、コミュニケーション、想像力)の障害を有する
- ・「自閉症スペクトラム」と同義
- ・以下の5つのPDDがある

- ・自閉性障害(*この中で知的な遅れを伴わないものを、「高機能自閉症」という)
- ・レット障害
- ・小児期崩壊性障害
- ・アスペルガー障害
- ・特定不能PDD(*非定型自閉症と同義)

上記の中で、高機能自閉症、アスペルガー障害、知的な遅れを伴わない非定型自閉症を「高機能PDD」という

LDへの基本対応

例: 読みの困難がある場合

- ・教科書を120%に拡大する
- ・文章の文節ごとに区切りをつける
- ・本人に文節ごとに 読ませる

ゆっくり、正しく読めるようになった

教科支援の基本; 該当学年より2~3学年下げた内容を!

ADHDへの基本対応

脳の実行機能に弱さがあるため、自らの動機付けが困難
故に、報酬(ご褒美)で行動をコントロールすることが基本

改善目標の一つ決め、達成したら
シールやスタンプの報酬等

「パソコン」というリソースで別人のように変わったA君(事例参照)

主な配慮事項

- ・注意や叱責の何倍もの賞讃を
- ・できていること、できそうなことを賞讃する
- ・賞讃、叱責は直後に明確に
- ・指示は必ず復唱させる
- ・クールダウンの場を設ける 等

PDDへの基本対応

視覚的な工夫

一度に一つ

予定の伝達

肯定的表現

文化に寄り添う

理解・対応事例

適応指導教室中学生(高機能系)事例。

- (カ) 君はモテるの?
 (本) 持てるはずないですよ。
 (カ) の腕が上がったね。
 (本) 腕が上がる???

聞いたことの意味が苦手な場合がある。その時には、かみ砕いて説明する。また、指導員がいないときには、周囲の子どもに同じようなフォローを依頼。

不登校予防・解決の視点

- 社会性(ソーシャルスキル)を育む
- 自尊感情を育む
- 児童生徒本人だけでは克服できない環境を取り除く(周囲の児童生徒育成等)

構成的グループエンカウンター(SGE)、
 ソーシャルスキル・トレーニング(SST)の活用

ソーシャルスキルとは何か

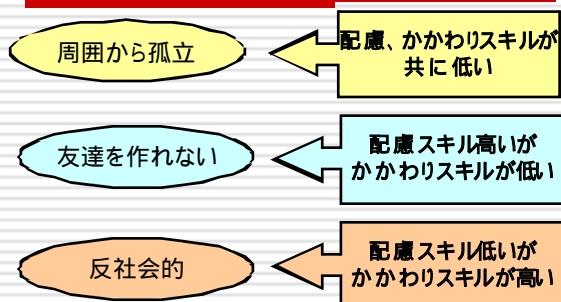
社会性、体験を通して学んだ人づきあいのやり方

コミュニケーションスキル(あいさつ、自己紹介、聴き方、質問)
 受容・遊び参入スキル(誘い方、入り方)
 受容・共感スキル(言葉のかけ方、働きかけ)
 主張スキル(頼み方、断り方、アサーション)
 問題解決スキル(トラブル解決策の考え方)



配慮のスキル~対人関係の基本的マナー
 かかわりのスキル~人とかかわるきっかけ、関係維持スキル

気になる子どもたちのスキルの特徴



なぜ、今、ソーシャルスキルなのか

いじめ、不登校、発達障害の問題は、子どもたちのソーシャルスキルの稚拙さが大きく関連

攻撃行動
 相手をやっつける
 (いじめ)

回避行動
 自分が消える
 (不登校)

注目行動
 目立とうとする
 (教室抜けだし)

衝動行動
 突発的に動く
 (キれる)



ソーシャルスキルを育むには

学んでいないなら学ばばいい、
 間違っていて覚えているなら学び直せばいい

行動理論(学習理論)がベース



ソーシャルスキルは児童期に最も発達する。
 特に小2~小5の時期が大切

ソーシャルスキル・トレーニング

してみせて 言って聞かせて させてみて
ほめてやらねば 人は動かず

<基本展開>

1. インストラクション(言語教示)
2. モデリング(示範)
3. リハーサル(実行)
4. フィードバック(評価)



ソーシャルスキルを育む具体対応

□ ターゲットスキル「話を聴く」の場合

1. ルールが「守れない」時を見逃さない
(対応:対決アイメッセージ、確認の質問など)
2. ルールが「守れている」時を見逃さない
(対応:褒める、勇気づける、認める)
3. ソーシャルスキル・トレーニング
(命令ゲーム、仲間外れは?、ロールプレイ等)

演習1~3

1. ひたすらジャンケン;スキル「よろしく、ありがとう」 * グルーピングにも使える

2. 探偵ゲーム;スキル「よろしく、ありがとう」
* グルーピングを兼ねる

3. 伝われ、私のありがとう;スキル「ありがとう」
* 般化して、教室を「ありがとう」でいっぱい

演習4. 上手な頼み方(初級編)

状況;クレヨンや消しゴム、ノート等を借りる

- A お願いする
- B 理由をつけて一度断る
- A 再度お願いする(理由をクリアする代案で)
- B 了承する
- A ありがとう、助かった、等

* ペアで行う、アサーションロールプレイ

本で教えるソーシャルスキル

対象及び周囲の児童生徒のスキル促進に効果的

ロン・クラーク著
「みんなのためのルールブック」

人付き合いのコツがイラストを通して楽しく学べる。
ADHD児が在籍する学級での実践例。



自尊感情を育む

子どもの自尊感情を育むには、言葉をかけたり、エクササイズを活用したりして、子どもの「いいところ探し」を繰り返すに尽きる。
エンカウンターには、「いいところ探し」、「気になる自画像」等の関係エクササイズが多くある。
(これまでに紹介済みなので、今回は省略)

コーディネーション事例1

適応指導教室中学生(高機能系)事例。
指導員が対象生徒と担任の間をコーディネートした際の工夫点は、

- ・対象生徒を「お茶係」としたこと
- ・学校の様子を定期FAX便で届けてもらったこと

コーディネーション事例2

適応指導教室中学生(LD)事例。友だちとの些細なけんかをきっかけに不登校になる。
指導員が対象生徒と担任の間をコーディネートした際の工夫点は、

- ・本人同士の話し合いの場を設定してもらったこと
- ・中3の4月に教室から修学旅行を奨め、担任からも気持ちを引っ張ってもらったこと

発達障害を抱える子どもの不登校予防・解決の基本1;障害理解

うまく指導してもらえなくてもいい。
でも、子どものことは理解してほしい
(ある保護者の声)

教育を行う者が、教育を行う子どもについて無知のまま教壇に立つことは、子どもに失礼極まりないことである(2003・杉山)

自閉症者の自伝がそのヒントになる

テンブル・グランディン、ドナ・ウィリアムズ

発達障害を抱える子どもの不登校予防・解決の基本2;周りも育てる

ADHDの疑いのある小4男児。
暴言等による他児とのトラブルが頻発

<1年間の指導を終えた担任の声>
学級全体に対するソーシャルスキルトレーニング等により、周りの子どもが育ったら、対象児童とのトラブルが減った。

参考:親野智可等先生の「ハンカチの話」